

技アリ!

いわての仕事録



- 1 板金のバンダー作業。多品種小ロットのものづくりには人の手が欠かせない。
- 2 プレス工場としてスタート、設備を入れ替え少量多品種に対応する板金工場に。
- 3 4人による加工は機械と違い品質の固定化ができないが、日々の品質改善活動を実施することで向上していく。この過程で得られた技術やノウハウを次の製品に活かせるのも人ならではの。
- 4 機械加工で取りきれなかった「バリ」を取り除く。
- 5 第二工場では分析装置を製造。部品の7割は自社工場で製造可能、全体でも9割は自社で調達している。
- 6 ハーネス加工にも多くの人の手が関わっている。
- 7 9切削工場で稼働するマルチタスキングマシン。旋盤加工とフライス加工を同時に行うことができる。
- 8 外観デザインの作り方から部品・製品設計まで担う技術開発部。同社の中枢だ。

次代を担う医療機器製造で地域再生へ貢献を

代表取締役社長
谷村 康弘

【支援企業紹介】北上市 谷村電気精機株式会社

県内製造業界リーダーの試練 受注製造事業に特化する道のり

「大震災の経験を経た我々が成すべきは、活発な事業活動を通じて当地の発展に必要な『機能』になること。この会社を、地域に根ざしたものとして大切に育てていきたいのです」。

昭和42年北上市に創業して以来、県内製造業界を牽引してきた谷村電気精機株式会社。昨年6月に代表取締役役に就任した谷村康弘社長は自らの職責を強く意識し、時流を読み事業の未来を探り続ける。半世紀近い同社の歴史は、そんな挑戦の連続だった。

新興製作所の創業者である谷村

貞治氏が設立した同社。創業時は郵便局向け為替貯金窓口会計機や国際テレックス装置などの量産組立を受注していたが、50年代半ばに大手電子部品メーカーとの取引が始まり、共同設計という形でプリンターの量産を開始する。だがバブルが崩壊し、メーカーの岩手撤退も決定。事業転換を迫られた同社は自社ブランド製品の開発・製造に乗り出すも、販路開拓に苦慮し継続を断念する。

この間10年あまり。試行錯誤の日々を経て同社が選択したのが、受託製造に特化した現在の事業体制だったと谷村社長はいう。「大手のパートナー企業でも専門メーカーでもない、お客様の望むものづくりを行っていく」。この

北上市に拠点を置く谷村電気精機株式会社。今や県内の医療機器製造業の牽引役として走り続ける同社にも、事業転換にともなう試行錯誤の時代があった。

【いわて産業振興センターの活用実績】
貸与・商談会・ものづくりアカデミーなどの多様な事業を利用、サポート力に感謝していると話す。「いわて医療機器事業化研究会」では共同代表をつとめ、連携を強化

方針提起とほぼ同時に、当センターから紹介を受ける形で医療機器メーカーとの取引が始まった。そして現在、医療機器製造の事業シェアは同社の売上の約7割を占めるまでに成長している。

次代を担うのは医療機器の製造 地場企業としての使命へ邁進

同社が製造する医療機器は、血液分析装置ほか心不全の診断に使用される移動式免疫発光測定装置等をはじめ、今では介護分野にも及ぶ。ちなみに日本国内に流通する3万品目を超える医療機器の多くは未だ輸入品であるため、現在は国を挙げて

「メイド・イン・ジャパンの医療機器づくり」の機運が高まっている。

事業としては追い風だが、人体に関わる医療分野ゆえ、参入のハードルは低くない。医療機器製造の許可はいうまでもないが、同社ではさらに医療機器の国際品質マネジメント規格ISO13485も取得、「世界展開を行う取引先から『パートナー』として選ばれるため」と谷村社長は説明する。そこには、プリンター製造で取り組んできた開発・設計のスキルに加え板金や切削加工場を有し、開発から加工・調達、量産までの一貫体制を称するビジネスモデル「BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)」を構築してきた自負もある。「ものづくりの入口から

出口までを請け負う」を実行するため、必要な手は惜しまないのだ。

自動車や半導体などの県内製造業は、リーマンショックと大震災で大きなダメージを受けた。だが医療分野は好不況に左右されにくく、震災後その思いが確信に変わったと谷村社長。「医療分野の持つ将来的な広がりや事業の安定性は、日本を牽引してきた半導体や自動車に続く産業になり得る」と語る。刻々と国内製造業を取り巻く環境が厳しさを増す中で、医療分野でのシェア拡大こそ企業存続のカギになると考えているのだ。

「企業存続こそが地域貢献」と谷村社長。従業員とサプライヤー、さらに地域の未来も見つめている。

プリンターから医療機器まで製造する生産体制

医療分析機器ほか情報端末機器、省力化・検査機器とプリンターが当社の主な生産品。開発設計技術と製造力に加え、金属加工工場を有し自社で部品調達もできる一貫生産体制「BPO(ビジネス・プロセス・アウトソーシング)」が、フレキシブルな生産活動を支えています。

技アリ!ポイント

企業データ

会社名 谷村電気精機株式会社
本社 北上市村崎野21-26-18
電話 0197-68-2311
代表者 谷村 康弘

創業 昭和42年(1967年)4月
従業員 230名
業種 医療分析機器、情報端末・通信端末等の製造
URL <http://www.yamura.co.jp/>